

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1097 2011年8月号

## 准フォレスター研修のスタート

8月1日から高知市の高知県森連会館においてはじまりました。

【詳細は2頁】



森林施業の実行監理演習



森林作業道現地踏査



2011・国際森林年

## 准フォレスター研修の開催について

〈森林技術センター・指導普及課〉

准フォレスター研修（第一週目）が、八月一日から

高知市の高知県森連会館においてはじまりました。研修には、四国四県の県職員が一五名参加しました。研修の講師は、林野庁職員、四国森林管理局職員、

大学教授等及び団体職員等です。

准フォレスターとは、平成二三年度から始まる新たな森林計画制度の下で、市町村が策定する市町村森林計画や、森林所有者等が策定する森林経営計画の認定・実行監理などを支援する県や国有林の職員です。

四国森林管理局では、これらの准フォレスターを育成するために二三年度に研修（第一週目及び第二週目）を二回実施することとしています。

研修の開講式では、四国森林管理局長の激励の挨拶から始まりました。

研修の内容は、森林・林業再生プランの概要、市町

村森林整備計画の概要、森林のゾーニング（森林の役割区分）と森林施業の考え方、路網と作業システムの講義や、森林施業の実行監理演習、市町村森林整備計画演習などとなっております。

森林施業の実行監理演習では、嶺北森林管理署管内の高知県の町奥南川山国有林を実習フィールドとして、帯状や群状に伐採し、植栽した複層林試験地などを見学し、森林作業道の作設等についても、現地実習を行いました。

また、市町村森林整備計画演習では、本山町の国有林を事例として森林のゾーニングを行う演習を実施しました。フォレスターは、中立的な立場で地域の森林を水源かん養機能などの公益的機能と木材生産機能に区分し、地域の皆さんに説明する

必要があります。

今回の一五名の研修生は、九月五日から九日に開催される研修（第二週目）を受講した後、准フォレスターとして、市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行いながら地域の

森林づくりの全体像を描くとともに、市町村が行う行政事務の実行支援を通じて、森林所有者等に対する指導等を行う人材となることが期待されています。

## 国有林野事業安全週間を終えて

〈職員厚生課〉

国有林野事業安全週間中の取組みとして、局署等

において職員参加による安全大会を開催するなど、職員一人一人の安全意識を高め、決意を新たに災害の未然防止を誓いました。

局においては、週間の初日に局長と三部長による安全旗の掲揚、週間中には各課輪番制による安全旗の掲揚を行い、安全意識の高揚に努めました

また、七月一日の局の安全大会では、局長より災害の発生状況、労働災害防



安全大会（交通講話）



市町村森林整備計画演習

止の責務及び交通事故防止の取組等の訓示を受けるとともに、高知警察署岡交通課長より「交通事故の実態等について」と題して講話が行われ、交通事故の発生状況や最近の道交法の改正ポイント、自転車の交通ルールについて説明がありました。また、車載カメラの映像により交通事故の実態が示され職員も熱心に聞き入っていました。

各署等においても工夫を凝らした行事を実施し、安全意識の高揚を図っているところですが、週間中の取組を契機として、「安全第一」を共通の認識として今後の安全活動に取り組んでいただきたいと思います。



緊急安全会議

請負事業者の重大災害の発生が三年度連続となったことから、現在事業実行中の事業者を対象に、八月八日、九日の両日、

## 緊急安全会議の開催について

〈販売課〉

緊急安全会議を開催しました。

会議においては、重大災害はもとより、一歩間違えば重大災害につながりかねない、転落・転倒等の災害について、その原因・対策等及び留意事項について説明を行いました。

今後においては、類似災害の未然防止を図るため、会議の趣旨を各事業者の現場作業員まで周知徹底を行うなど、発注者・受注者の互いの認識の共有を図り、災害の未然防止に努めることを確認しました。



木工教室

七月五日、高知県土佐市立山の手保育園において、森林教室と木工教室及び木を使ったおもちゃ遊びに、親子一六組が参加しました。これは、前年度、地域の祭り「第六回山の手ふれあいフェスタ」の体験学習コーナーの一つとして四国森林管理局が実施した、木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室を園長さんが見学したのがきっかけで依頼が

## 『保育園親子森林教室』の開催

〈指導普及課〉

あつたものです。

森林教室では、紙芝居を使って森林の働き等について理解を深めてもらい、木工教室では、木の枝等を使って「無事カエルのネームプレート」を作製しました。園児及び保護者の方は、オリジナルのネームプレートの出来映えに満足した様子でした。

その後、木製の国際森林年ロゴマークパズルや、けん玉ゲームなど、また、木製ゴムてっぽう射的大会を行いました。

今回のイベントは、園児及び保護者に対して森林の働き及び木の良さ、大切さを遊びを通して学んでもらうものであり、また、国有林野事業のPRの良い機会になりました。



これで木の高さが測れる？

# 各地のたより



## 校庭の木も二酸化炭素を貯めてるんだ

〈ふれあいセンター〉

七月一四日、土佐清水市立清水小学校の五年生七六名を対象に森林教室を行いました。

森林が二酸化炭素を固定することについて学習するため、まず、当センター職員から木が二酸化炭素と

水を吸収し、光エネルギーを使って光合成をすることで木の中に炭素を貯めていることや、そのことにより温室効果ガスである二酸化炭素を減少させ、地球の温暖化防止に役立つていることを絵や「CO<sub>2</sub>のカンヅメ」(木星会・森の教材)を使って説明しました。

その後、校庭にある木の大きさを直径巻尺や検測竿(木の高さを測る器具)、三角定規などを使って測りました。検測竿や三角定規で測った結果を、デジタル測高器で確認してみると、ほぼ正確だったので、思わず感嘆の声が上がります。校庭の木がどのくらい二酸化炭素を吸収しているかを、木の大きさをパソコンに入力して計算しま

した。

児童は、普段は目に見えない二酸化炭素の量を計測することに戸惑いを隠せない様子でしたが、地球温暖化防止に木や森林が役立つていることを、少し理解してもらえたようです。(以下、児童と職員とのやりとり)

職員「ところで土佐清水名産の宗田節を作るためには薪をたくさん燃やすけど、せっかく木が貯めた二酸化炭素を出してしまうねえ」

児童「薪は燃やされん」

職員「けんど、薪を使わなかったら宗田節はできんぞ」

児童「また木を植えたらえいがよ」

職員「そうやねえ。薪で使うただけ木を育てたら、また二酸化炭素を吸ってくれるきね」

## 校庭の木の炭素現存量を測ったよ

〈ふれあいセンター〉

七月五日、四万十市立後川中学校において、一年生九名と、隣接している利岡小学校六年生一名を対象に森林教室を行いました。

「森・川・海のつながり」として、森で作られた栄養分が川から海へ流れ、プランクトンや昆布や魚の栄養となっており、森が豊かに

なれば、川も海も豊かになることを説明し、「森林のはたらき」として、水を蓄えるはたらきや山崩れを防ぐはたらき、地球温暖化防止のはたらき等があることを説明しました。

次に、樹木が二酸化炭素を吸収し水と光エネルギーを使って成長するとともに、炭素を固定していることを説明しました。その炭素量を測るためには樹木の体積を求めなければなら

### 森林学習の感想

今、土佐市にとって大切な森林が、鹿やマツクイムシという動物、生き物が森林を破壊しているとは知りませんでした。

この11年は国際森林年にしてテーマが森を歩いてもらう森を歩くこととしていることを知り、体験したりはさきことは、たしかに大事だと思いました。

森は海の恋人といっていたけれど、海にとって森は大切な存在でなくてはならないものなんだと思いました。

森林にはワツものはたらきがあることも知りました。

実際に木の高さを測ったり、木の回りを測ったりもでき、今年は新しい三角定規で測れることも知りました。

三角定規なら学校にもあるので測ろうと思えばいつでも測れるなと思いました。

今年もいろいろなことが知れてよかったです。

後川中学校 1年 坂本榮摘



木の直径を測定中

いこと、測定のための道具として、輪尺・直径巻尺・測竿・デジタル測高計が必要であることを説明した後、校庭に移動し、イチヨウやモミ等の胸高直径と樹高を測定しました。中学生は昨年と同じ授業を受けており、測定器具も上手に使っていましたが、また、今回初めて、職員手作りの三角定規を使つての樹高測定も行いました。

測り終えた生徒達は、再び教室へ戻り、炭素現存量の計算に移りました。算出するために、枝や根っこを含めた樹木全体の体積を求めた後、乾燥時の重さ、その中の炭素の含有量、最後に樹木が吸い込んだ二酸化炭素の重さを求めました。生徒達は、係数が連続する計算にとまどいながらも、モミの木(胸高直径七〇cm、樹高二一m)が六・二二トンの二酸化炭素を固定していることを導き出して驚いていました。

この学習を通して校庭にある木も二酸化炭素を固定し、地球の温暖化防止に役立つということが理解できたようです。

この行事は、三嶺周辺の保護活動を行っている「三嶺の自然を守る会」(暮石理事長)が、シカ被害が激しい高知県側の実情を把握し、樹木の保護に協力しようと呼びかけて実施されたもので、朝早く徳島市を出発した一行二八名は白髪山登山口に一〇時に到着しました。まず、同行していただいた徳島県自然保護協会の森本会長から、下層植生などが失われると、森全体が衰退するというお話をいただきました。

**ニホンジカ被害観察会と  
ネット巻き作業を行う**  
〈徳島森林管理署〉

七月一六日、高知中部森林管理署内の白髪山付近で「三嶺の森を守るみんなの会」と高知中部署が主催する樹木ネット巻き作業が

その後、ネットや道具などを担いで、ネット巻き作業を行う白髪山(一、七七〇m)に登りました。途中のササ原で、「三嶺の



ボランティアによる樹木防護ネット運搬中

森を守るみんなの会」の依光代表からニホンジカ被害の経過や現状について、説明をしていただきました。白髪山周辺で、徐々にニホンジカの被害が深刻化している現状を、参加者一同重く受け止めたようでした。白髪山山頂で昼食をすませ、午後は山頂付近の樹木にネット巻きを行いました。すでにモミやウツギは枯れたものが多く、最近ではダケカンバやカエデなども被害を受けるようになってい



ボランティアによる  
樹木防護ネット取付中

ます。参加者は、生き延びる可能性のある樹木を選んで、熱心にネット巻きを行いました。二時間足らずの作業でしたが、ダケカンバなど、一二本の樹木を保護することができました。

当日は、新聞記者も同行してくれました。こうした地道な取組を継続していくこと、また、社会に対して理解と協力を求めることも重要です。当署としても、NPOやボランティアと協力しながら、今後ともニホンジカ対策に取り組んで行きたいと考えています。

## 施工管理研修と安全祈願祭が行われる

〈徳島森林管理署〉

七月二十七日、美馬市木屋平の中尾山高原体育館で、平成二三年度徳島・香川地区施工管理研修会が開催されました。これは、治山・林道工事の施工技術の向上と施工管理・安全管理の徹底を目的として、(社)高知林業土木協会が毎年開催しているもので、治山工事の発注量が多い当署も積極的に参画しています。

当日は、両県から約一三〇名の工事関係者、徳島署・香川所の担当者が参加し、主催者挨拶に続いて、徳島署長から優良工事と無災害施工の徹底を要請して、研修に移りました。

まず、三好労働基準監督署監督官から労働安全に関する講話があり、その後、局森林整備課と治山課の設



安全パトロール中

計指導官から治山・林道工事の施工及び施工管理のポイントについての講義が行われました。これに対して、参加者からは、積極的に質問・要望が提起されるなど、有意義な研修会となりました。

翌二八日は、美馬市営平成荘で当署と「山を治め森を育てる会」の共催による安全祈願祭が開催されました。当署では三年近く無災害が続いていましたが、今

年七月に二件の災害が続いたことから、安全施工の徹底について決意を新たにしました。

その後、西日本第二の高峰、剣山の中腹で実施されている見の越(上)の工事現場に移動し、林業土木協会と合同で安全パトロールを実施しました。

治山工事の現場は、自然環境や施工条件が厳しい箇所が多い中、今後ともこのような機会を活用し、技術力の向上と労働安全の確保を図りながら、安全・安心の国土づくりに取り組んでいきたいと考えています。

## 地元中学生が西熊山でフィールドワーク

〈高知中部森林管理署〉

七月一日、香美市立大栃中学校の全校生徒四二名と教諭一二名が地域の自然や地場産業である林業につ

いて理解を深めようと、西熊山国有林のさおりが原を中心に森林環境学習に取り組みました。

出発式で、二村署長から「今年度は国際森林年です。森林の自然観察と保護活動を体験しましょう。」と挨拶がありました。

午前中は、森林を散策しながら、ネイチャーゲームのサイレントウォークとフィールドビンゴを行いました。サンショウの葉の匂いを嗅いで「鰻の蒲焼きだ」と盛り上がるなど、五感をフルに使った自然観察を楽しみました。

さおりが原に到着して、まず「森の巨人たち百選」のイヌザクラの巨木を見学しました。トチノキの巨木は、昼前から降り出した雨のため、見学を中止しました。

今回の環境学習のメインであるニホンジカの森林食

害について、被害の現状や対策等を川口流域管理調整官が説明すると、生徒たちは真剣に耳を傾けていました。その後、班に分かれて、樹木をシカの食害から守るラス(防護ネット)巻き作業を体験しました。

今回は雨のため、行事を一部変更して行いましたが、森林に親しみ良いきっかけとなったことと思います。



樹木に防護ネットを巻く生徒

